

# 読む



# ビタミン

地域に根ざす工務店

・リフォーム店を元気にするビタミンです。

## 2019年4月号

### 今月のひと言

#### ダイバーシティって、よく耳にするようになりましたね。

「ダイバーシティとは、多様な人材を積極的に活用しようという考え方のこと。性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとするマネジメント。企業がダイバーシティを重視する背景には、有能な人材の発掘、斬新なアイデアの喚起、社会の多様なニーズへの対応といったねらいがある」。

大企業ならグローバルな時代なのでダイバーシティは必須かも知れませんが、地方の中小企業にとっては、あちらの世界のお話で終わってしまいそうですね。

でも、「多様性」ということにスポットをあてれば、仕事や暮らしに、創意工夫を施したいとき、新しいものを取り入れたいときなど、いろんなジャンルの人の発想や知恵が手に入れば大変参考になりますよね。しかもコストがかからなければ、願ったり叶ったり…。

そこで見直したいのが地域のボランティア活動です。

例えば都市型の町なら小学校学区一つにつき、こんなにも各種団体が活動し、相互交流と協力態勢を持っています。

- 教育関連なら：小学校、学校運営協議会、PTA
- 福祉関連なら：社会福祉協議会、民生児童委員会、保健協議会、共同募金分会、日赤奉仕団
- 地域関連なら：ゴミ減量推進協議会、地域女性会、シルバークラブ、児童館、体育振興会、自主防災会
- 警察・消防関連なら：防犯推進委員会、少年補導委員会、交通安全会、保護司会、消防分団

ご自分の興味関心のある各種団体に入って地域活動をすることで、実はこれだけのネットワークの人と結ばれるのですね。

これが地域社会のダイバーシティ！  
何を知っているかより、誰を知っているか。  
これが強いんですよね。

# ！はんソク コツつぼ



骨壺、ではありません。販売促進のコツとツボ、でございます。私の販促人生約40年の中で5千枚以上、様々なツールのラフを書いてきました。それだけあれば、多少は役立つものもあると思います。ちょっとしたアイデアや見せ方等ヒントになればと、ご紹介していきますので真似できることはどんどん真似してくださいませ。

VOL.3

## 共感を得る切り口で、結論は最後に！ という見せ方もある。

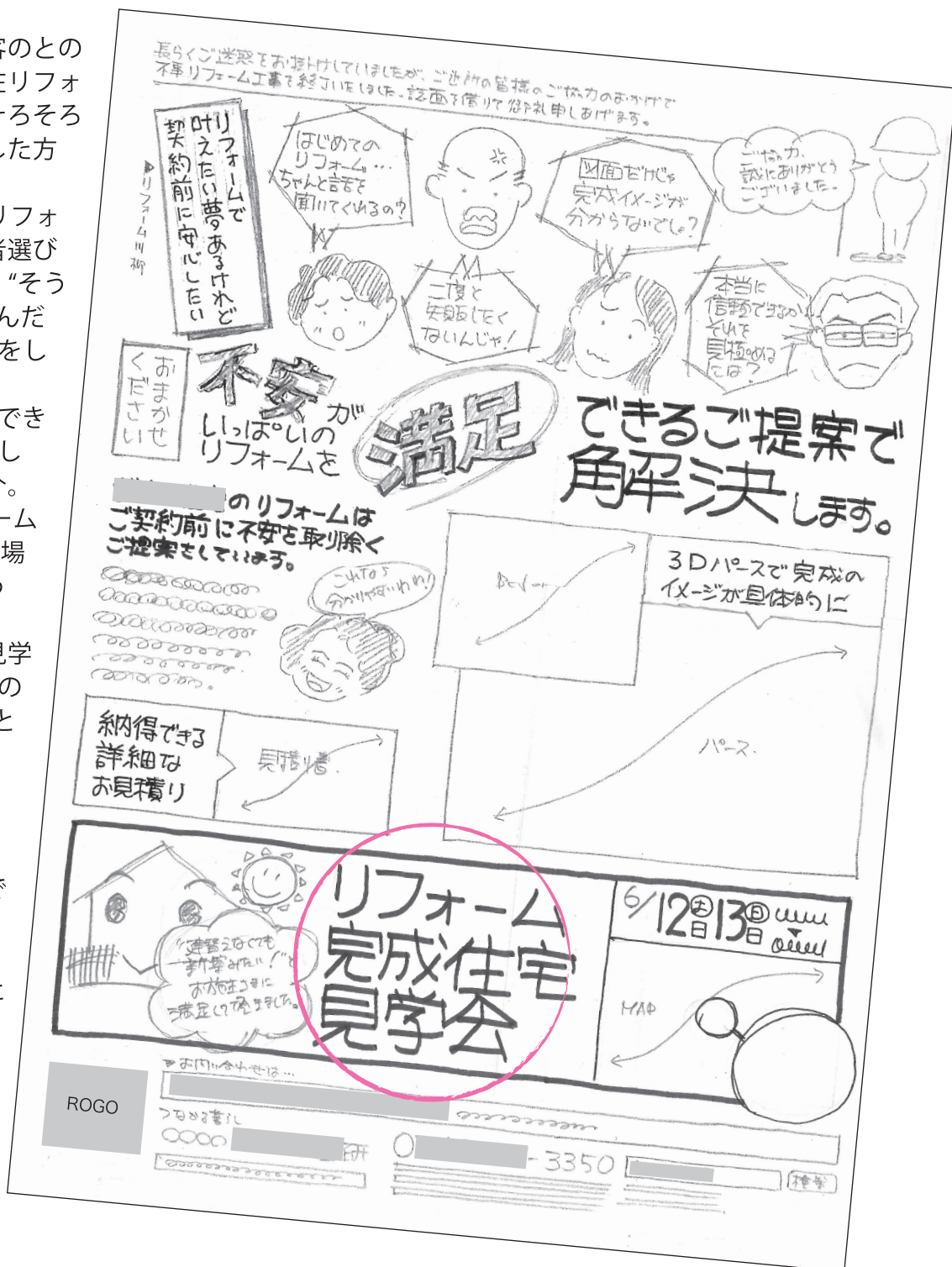
大規模リフォームであることで、見学会ができた事例の一つ。現場周辺へのポスティングツールとしてつくりました。

目的はリフォーム見込客のとの出会い。よって、今現在リフォームを考えている方やそろそろやろうかな、と考えだした方がターゲット。

そこで、お客様目線でリフォームする前の不安や業者選びの不安をイラストで書き“そうなんだよ、そこが心配なんだよ”と共感を得る入り方をしています。

次はそれを受けて、満足できる提案で解決します。としその具体策を簡潔に紹介。最後に、それは「リフォーム完成住宅見学会」という場でやっているよ、という結論でしめています。このチラシは見込客を見学会に呼ぶことなので、この結論がチラシの「出口」となっているのです。

注意点は「リフォーム完成住宅見学会」というタイトルが、紙面の中で一番目立つようにしておくこと。でないと、この結論が伝わらないと目的の集客ができなくなってしまいます。





# 不易流行

夢い(はかない)ものに、触れていますか

## 舞台

前野 健太

愛媛のライブ会場は、どうもやという旅館だった。松山の道後温泉である。20歳の頃、寝袋の旅で訪れた時は温泉には入らなかった。興味がなかったわけではないけれど、どこか遠慮があったというか、勝手がよくわからなかったのかもしれない。

リハーサル時、外に夕焼け空が広がり、ちあきなおみの「夕焼け」という歌を思い出した。昔の空はもっと赤かった。そんなフリースがびったりの懐かしい赤さ。周囲のホテルや飲食店にも明かりがとまり始める。

リハが終わり、現地のスタッフと話していたら、ストリップ劇場の話になった。ニュー道後ミュージック。もちろん知っている。これまで全国のストリップ劇場を巡ってきた中で、行けないのは道後と福井のあわらミュージックだけだったからだ。それ以外はすべて訪れてい

る。といっても、もう20館ほどしか残っていないのだが。

ライブ本番まであと1時間余り。タメ元でスタッフに調べてもらおうと、ちょうど15分後から次の回が始まりますよ、という。行くしかない。宿の主人の厚意

## プロムナード

に甘え、5分で温泉に入り、みかんをもらい、ニュー道後ミュージックに急いだ。

坂を下り、階段を下りると3分で到着。いやはやラッキーだ。開演まで5分あるから、少し温泉街をぶらつき。まんじゅうと焼きおにぎりを買い、歩きながらほおばる。浴衣姿の温泉客とすれ違った。いいね。



劇場に戻ると客は自分を含めて3人だけ。大きな拍手を心かけた。自分の拍手ひとつで踊り子さんの踊りがグッと変わるはずだから。

場内アナウンスが流れる。「お見受けする限り、今日もすけべそうな顔のお客さんで恐縮でございます」。意味が分からなくて笑ってしまう。こういうのがたまらないんだ。

踊り子さんが現れた。軽快な

音楽で踊り、だんだん静かな曲へ。脱ぎながら前方のデベンにやってくる。舞台の中央から張り出した、ゆっくりと回転する円形のステージだ。後方からスポットライトを浴びながら、遠くを見つめる。その表情。あらわになった肉体。美しい。来てよかった、と思った。

俺もお前も旅役者。

そんなフリースが頭をよぎる。歌があふれてくる。旅役者より旅芸人がいいか、旅芸者か……。もう脳内で歌を作っていた。せこい人間だなと思いがちながらも、発動した歌に付き合う。

それにしてもストリップ劇場はいい。昭和から平成を生き抜き、さらに次の時代にも存在し続けようとしているこのハコは、いったい何なのだろう。女性の

裸なんてネットなどでさっと見られる時代だ。もっと直接的な風俗産業だ。たたくさんある。けれど、女性のからだが一番美しく儂く見えるのはストリップではないかと改めて思った。

歌もまた儂い。ストリップでかかる歌ほどの環境で聴く歌よりも艶っぽく聞こえる。からだをささえる歌。歌に身を預ける踊り子。指先から投げかける夢。劇場を出るとき、踊り子さんが寝間着のような姿でストープに当たり、劇場の人たちと世間話をしていた。おいおい、あなたはスターなんだから、そんなところで舞台裏を見せないでくれよ、と思いがちながら「良かったです」と伝えた私に、彼女はくわえ煙草で軽く会釈を返しただけだった。

グッときた。街の中まで舞台は続いているようだった。(シンガー・ソングライター)



工務店さんがいるところなら...

日本全国東奔西走どこへでも!

呑んで騒いで時折仕事。

酔いどれ 早川大ニの



# 渡り鳥 旅日記



## 六十九合目



## “高いものより 旨いもの”の巻

きっと、安倍さんとオバマさんが行ったすきやばし次郎のうになって卒倒するくらい旨いんでしょうね。

きっと10年連続でミシュラン三つ星の快挙を成し遂げたフレンチレストラン・カンテサスのフォアグラなんて悶絶するくらい旨いんでしょうね。

しかし小生、このようなところには縁がありません。

なぜ、ってそりゃあ・・・お高くておいらには不似合い、というか行けないからであります。行ける条件を備えてない、ってことです。

しかし、旨いものは大好き! 旨いお酒ももちろん大好き!

さて、こんなおいらですが、旨いもの、旨い酒はいつもたと頂くことができます。どうしてか? 理由は2つ。日本には安くて旨いものに溢れていることと、おいらが渡り鳥なのでその旨いものがある各地を渡り歩くことを仕事にしているから。



▲久々の新潟は長岡。居酒屋で。お漬物でもちゃんと丁寧につくって旨し



▲出張の帰り際。長岡駅の蕎麦屋。割と安めで旨い酒「吉乃川」と蕎麦の身の入ったとろろで一杯。写真左上のふきのとう、このほろ苦さが春を告げるのですねえ。

これはありがたいことで、贅沢な豊かさだと思っちゃいます。ただし、観光地の有名店や空港のレストランなんかはNGだな。地元の人が気軽に立ち寄る店で、気軽に食べて呑めるところがいい。そこで頂く新鮮な魚、素材そのものの旨味、出汁や味噌、なんか懐かしいような庶民的な味付け。

そして、地方都市独特の気取ってない居心地の良さ。

そうなんです、高いものより、旨いもの。なのであります。

顧みれば、30歳の頃からの渡り鳥、本当に全国の旨いもの、旨い酒を頂いてきました。そりゃあ、あ～た、高血圧にもなるし、γGTPも尿酸値も高くなるし(おかげさまで糖尿病の予兆はないが)、で、問題も抱え込んでしまってますがね。

まあ、そういうお年頃であるわけですから、塩分、アルコールを控え、適度な運動(この適度なつのが難しくて)をしないとな。そんな年寄り染みた思いでいるおいらの前を、JK達(女子高生)が大笑い

しながら颯爽と通り過ぎていきます。“**私たちは最強で婆なんかにならないわ**”と言わんばかりに。おらも半世紀前はああだった。怖いものなんてなかった。ってまあ、それはさておき、残りの人生も旨いものと旨い酒で楽しもうではありませんか、ご同輩!!



▲長岡市の海側にある出雲崎は、あの良寛さんのゆかりの地。で、その町でつくられているのがご当地名物「良寛牛乳」。楽しい～。